

令和5年度
発生予察情報

発生予報第3号（概要版）

令和5年5月29日発行
宮城県病虫害防除所
(TEL:022-275-8982)

作物名	病虫害名	発生予報	備考
水稲	イネミズゾウムシ	発生量: 平年並	
	イネドロオイムシ	発生時期: やや早い 発生量: 平年並	発生時期: ふ化盛期

作物名	病虫害名	発生予報	備考
りんご	斑点落葉病	発生量: やや多	
	ハダニ類	発生量: やや少	
	アブラムシ類	発生量: やや少	

作物名	病虫害名	発生予報	備考
なし	黒星病	発生量: やや少	

作物名	病虫害名	発生予報	備考
うめ	黒星病	発生量: 平年並	
	アブラムシ類	発生量: 平年並	
	コスカシバ	発生量: 平年並	

作物名	病虫害名	発生予報	備考
夏秋トマト	うどんこ病	発生量: 平年並	
	灰色かび病	発生量: 平年並	
	アザミウマ類	発生量: 平年並	
	アブラムシ類	発生量: 平年並	
	コナジラミ類	発生量: 平年並	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
夏秋なす	うどんこ病	発生量: 平年並	
	すすかび病	発生量: 平年並	
	灰色かび病	発生量: 平年並	
	アザミウマ類	発生量: 平年並	
	アブラムシ類	発生量: 平年並	
	コナジラミ類	発生量: 平年並	
	ハダニ類	発生量: 平年並	
	ハモグリバエ類	発生量: 平年並	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
作物共通	オオタバコガ	発生量: 平年並	
	ハスモンヨトウ	発生量: 平年並	
	シロイチモジヨトウ	発生量: 平年並	

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第4号の発行日は6月12日(月)の予定です。

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所 メルマガ

トップページ



登録フォーム

ー初期害虫の発生予報と防除のポイントー

巡回調査: 5月17～22日

定点調査: 大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報: 仙台管区气象台5月29日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
イネミズゾウムシ	ー※	平年並

予報の根拠

- (1) 定点調査における成虫の本田侵入始期は平年(5月第5半旬)よりやや早い5月第4半旬であった。本田侵入盛期は平年(5月第6半旬)よりやや早い5月第5半旬と推測される(※)。
- (2) 巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く(/+)、成虫の発生量は平年並であった。(/±)

病害虫名	発生時期 (ふ化盛期)	発生量
イネドロオイムシ	やや早い 6月第2半旬(6/6～6/10)	平年並

予報の根拠

- (1) 成虫の本田侵入には日最高気温 20℃以上であることが好適であり、向こう2週間は最高気温が 20℃以上の日が続くと予報されている。(- /)
- (2) 巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く(/+)、成虫の発生量は平年並であった。(/±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

・薬剤抵抗性の発達防止のため、IRAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

※IRACコード:殺虫剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したものを。
(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)

・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

- ・箱施用剤で防除を行った場合でも、要防除密度(下表)を参考に、必要に応じ茎葉散布による防除を実施する。
- ・イネミズゾウムシはすでに侵入盛期を迎えていると推測されるため、必要に応じて直ちに防除を実施する。
- ・イネドロオイムシについては、ふ化盛期が平年よりやや早まると推測されるため、侵入盛期または産卵盛期の要防除密度を参考に、防除適期であるふ化盛期に防除を実施する。

表 初期害虫の防除時期と要防除密度

害虫名	防除時期		要防除密度
	本年推定	平年	
イネミズゾウムシ	5月第5半旬 (5月 21～25 日)	5月第6半旬 (5月 26～31 日)	侵入盛期の成虫密度(畦畔際2m程度):100株当たり140頭 ※晩期栽培の場合は70頭
イネドロオイムシ	6月第2半旬 (6月 6～10 日)	6月第3半旬 (6月 11～15 日)	侵入盛期(平年:6月第1半旬)の成虫密度:100株当たり25頭 産卵盛期(平年:6月第2半旬)の卵塊密度:100株当たり80個

(2) イネドロオイムシ

- ・本虫のチアメキサムに対する薬剤感受性低下が確認されているため、本成分を含む箱施用剤を使用して発生が多く確認されたほ場では、別系統の箱施用剤を使用する。
※普及に移す技術 第94号 参考資料6「水稻のイネドロオイムシに対する殺虫成分チアメキサムの薬剤感受性低下」<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/735193.pdf>
- ・一方で、チアメキサムに対する薬剤感受性個体群において、ジアミド系に対する感受性は低下しておらず、効果も認められている。
※普及に移す技術 第97号 指導活用技術 13「イネドロオイムシのチアメキサム感受性低下個体群に対するジアミド系殺虫成分の感受性」
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/39420/r3hukyuugi28.pdf>

(3) いもち病

- ・本田でのいもち病の発生源となるため、補植終了後の苗は速やかに除去し、裏返す等、適正に処分する。

－農薬の適正使用について－

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 3 風の弱い時間帯を選び、周辺環境への飛散防止に努める。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』配信中★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー6月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査: 5月17～22日

天候予報: 仙台管区气象台5月25日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
斑点落葉病	ー	やや多

予報の根拠

- (1) 前年の発生量は平年よりやや多かったことから、伝染源量もやや多いと推測される。(/ +)
- (2) 巡回調査の結果、新梢葉における発病は確認されなかった。(/ -)
- (3) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高く(/ ± ~ +)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/ ± ~ +)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	やや少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、新梢における寄生は確認されなかった。(/ -)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高く(/ ± ~ +)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/ - ~ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	ー	やや少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、寄生新梢率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は平年並か多いと予報されている。(/ - ~ ±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+): 遅くなる要因 (±): 平年並になる要因 (-): 早くなる要因 (空欄): 該当せず
発生量…(+): 多くなる要因 (±): 平年並になる要因 (-): 少くなる要因 (空欄): 該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤによる防除は低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

^{エフラック}
※FRACコード:殺菌剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したもの。

^{アイラック}
※IRACコード:殺虫剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したもの。
(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)

・DMI 剤 (FRAC コード*:3)、QoI 剤 (FRAC コード:11) 及び SDHI 剤 (FRAC コード:7) 並びにこれらの混合剤は、耐性菌対策のため、それぞれ年間2回以内の使用とする。

・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>

・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

(2)斑点落葉病

・本病は感染から発病までの潜伏期間が数日から7日程度と短く、今後1か月は高温多湿で経過する予報であるため、予防防除に努める。

(3)ハダニ類

・ハダニ類の越冬量が多かったほ場では、早期から寄生密度が高くなる傾向にあるので、樹冠内部をよく観察し、**1葉当たり3頭以上**寄生している場合は防除を実施する。

(4)アブラムシ類

・発生が見られる場合は、他の害虫との同時防除とするが、寄生種により防除効果の高い薬剤を選定する。また、発生状況によっては追加防除を実施する。

・薬剤防除を行う際は、新梢等の寄生部位まで薬剤が行き渡るように散布する。

— 農薬の適正使用について —

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 3 風の弱い時間帯を選び、周辺環境への飛散防止に努める。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー6月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:5月 18～19 日

天候予報:仙台管区气象台5月 25 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
黒星病	ー	やや少

予報の根拠

- (1) 前年の発生量は平年より少なかったことから、伝染源量は少ないと推測される。(/ー)
- (2) 巡回調査の結果、果そう基部における発病及び果そうや新梢における発病葉は確認されなかった。(/ー)
- (3) 本病の発生には気温 20℃前後で多雨が好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高く(/±)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/±～+)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
 発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤによる防除は低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ※^{エフラック}FRACコード:殺菌剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したもの。
- ※^{アイラック}IRACコード:殺虫剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したもの。
 (参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jpca.or.jp/labo/mechanism.html>)
- ・本県では現在まで DMI 剤 (FRAC コード*:3)、QoI 剤 (FRAC コード:11)、SDHI 剤 (FRAC コード:7) の耐性菌は確認されていないが、今後もこれらの混合剤を含めた使用は、それぞれ年2回以内とする。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>
- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

(2)黒星病

- ・過繁茂にならないように新梢を管理するとともに、伝染源となる果そう基部病斑(図1)、発病葉(図2)および発病果(図3)の早期発見・除去に努め、ほ場外に持ち出して土中深く埋めるなど適切に処分する。
- ・本病の感染から発病までの潜伏期間は14～30日とされている。防除間隔があきすぎないように定期的な予防防除に努める。



図1 果そう基部病斑



図2 葉脈の病斑



図3 果実病斑

— 農薬の適正使用について —

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 3 風の弱い時間帯を選び、周辺環境への飛散防止に努める。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー収穫期までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:5月18～19日

天候予報:仙台管区气象台5月25日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
黒星病	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、果実における発病は確認されなかった。(/ー)
- (2)本病の発生には気温20℃前後で多雨が好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高く(/±)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、新梢における寄生は確認されなかった。(/ー)
- (2)向こう1か月の平均気温は平年並か高く(/±～+)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/ー～±)

病害虫名	発生時期	発生量
コスカシバ	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、主幹部における被害か所数は平年並であった。(/±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤの防除では低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は病害虫の発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

※FRACコード:殺菌剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したもの。

※IRACコード:殺虫剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したもの。

(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)

- ・DMI 剤 (FRAC コード*:3)、QoI 剤 (FRAC コード:11) 及び SDHI 剤 (FRAC コード:7) 並びにこれらの混合剤は、耐性菌対策のため、それぞれ年間2回以内の使用とする。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>
- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

(2)黒星病

- ・第1次伝染源である枝病斑を剪除する。
- ・本病の潜伏期間は長く、果実病斑は新梢に対する伝染源となるため、見つけ次第除去する。
- ・収穫前使用日数に注意して約2週間間隔で薬剤防除を実施する。
- ・本病は日照、通風不良ほ場で発病が多いことから、必要に応じて新梢の間引きを行い、風通しと日当たりをよくする。

(3)アブラムシ類

- ・発生の多いほ場では、他の病害虫の発生状況も考慮して薬剤を選定し防除する。
- ・薬剤防除を行う場合は、枝の先端まで薬剤が行き渡るように散布する。

(4)コスカシバ

- ・春以降でも幼虫は樹皮下にいたことから、食入部位や虫糞が混じった赤褐色の樹脂を見つけ次第、エアゾール剤で防除を行う。なお、エアゾール剤を使用する際は、虫糞や木くずを取り除き、薬液が逆流するまで噴射する。
- ・幼虫の食入部位をノミなどで削り取り、幼虫を捕殺するか、上から金槌等で叩いてつぶす。

－農薬の適正使用について－

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 3 風の弱い時間帯を選び、周辺環境への飛散防止に努める。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

－6月下旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:5月18、22日

天候予報:仙台管区气象台5月25日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	－	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2)向こう1か月の平均気温は平年並か高いと予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
灰色かび病	－	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2)15～23℃で湿度が高いことが発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高く(/ ±)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/ ±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	－	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は平年並であった。(/ ±)
- (2)向こう1か月の平均気温は平年並か高いと予報されている。(/ ±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	－	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は平年並であった。(/ ±)
- (2)向こう1か月の平均気温は平年並か高いと予報されている。(/ ±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	－	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2)向こう1か月の平均気温は平年並か高いと予報されている。(/ ±～+)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):少くなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・発生源からの飛来を防止するため、ほ場周辺の除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・植物体の過繁茂は、病害の発生を助長するほか、薬剤の散布ムラや、病害虫の発生を見落とす可能性があるため、適切に脇芽取りや誘引等の栽培管理を行う。
- ・病害虫が多発してからの防除は困難になるので、初期防除の徹底を心がける。
- ・訪花昆虫を利用する場合は、訪花昆虫の影響日数に注意して使用薬剤を選択する。
- ・生育に応じて葉かきを行い、除去した葉は放置せず、ポリ袋等で密閉して完全に枯死・死滅させてから処分するか、土中に埋める。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) うどんこ病

- ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、気門封鎖剤も含めて FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。ただし、気門封鎖剤は薬害が出やすいため、あらかじめ数株に散布して薬害の状況を確認してから、植物体全体にムラなく散布する。

※「普及に移す技術」第 94 号(令和元年発行)参考資料14「トマトうどんこ病に対する気門封鎖型薬剤の防除効果」<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/735201.pdf>

(3) 灰色かび病

- ・15～23℃で湿度が高いと発生が助長されることから、換気を適切に行うとともに、適切に脇芽取りや誘引を行い、風通りの良い草姿を維持する。
- ・咲き終わった花卉が第二次伝染源になるので、咲き終わった花卉は手で取り除くかブロアで吹き飛ばす。
- ・発病した果実や茎葉は見つけ次第摘除し、施設外へ搬出し適切に処分する。

(4) アザミウマ類

- ・近年薬剤感受性の低下が全国的に問題となっているため、発生しているアザミウマの種類に効果がある IRAC コードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。

※「普及に移す技術」第 93 号(平成 30 年発行)参考資料9「アザミウマ類の各種薬剤に対する感受性」<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/685975.pdf>

- ・野外では5～7月の各種雑草の開花期に発生量が多くなるので、施設内への飛込に注意する。
- ・トマト黄化えそ病(TSWV)、トマト茎えそ病(CSNV)、トマト退緑斑紋病(CaCV)などのウイルス病を媒介するので、発病株は見つけ次第抜き取り、施設外へ搬出し適切に処分する。

(5) アブラムシ類

- ・多発すると作物への吸汁や排泄物にすす病が発生して被害が出るので、適切に防除を行う。
- ・アブラムシ類によるモザイク病などのウイルスの媒介は主に有翅虫によるので、防虫ネットで有翅虫の侵入を防ぐとともに、発病株は見つけ次第抜き取り、施設外へ搬出し適切に処分する。

(6)コナジラミ類

・コナジラミ類にはオンシツコナジラミとタバココナジラミがいるが(図1)、タバココナジラミ(バイオタイプ B 及び Q)は黄化葉巻病(TYLCV)を媒介し、宮城県内でも黄化葉巻病が確認されているので注意する。

※令和4年度特殊報第1号「トマト黄化葉巻病(TYLCV)の発生について」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/38792/r04tokusyuno01.pdf>

- ・コナジラミ類は多発すると排泄物(甘露)によるすすが発生することと、タバココナジラミは低密度でもウイルスを媒介するため、ほ場をよく見回り、施設内への侵入防止と発生初期からの防除を徹底する。
- ・主に葉裏にいたので、薬剤散布は葉の表だけでなく植物体全体にかかるように散布する。
- ・多発時は卵、幼虫、蛹、成虫が混在するので、1週間～10日おきに防除を行う。
- ・タバココナジラミのバイオタイプ B 及び Q は外見が類似しているため肉眼での区別が不可能であるが、バイオタイプ Q はバイオタイプ B と比較して薬剤感受性が低い事例が他県で報告されていることから、気門封鎖剤や天敵製剤による防除もあわせて行う。



図1 オンシツコナジラミ(左)とタバココナジラミ(右)

オンシツコナジラミは翅を背中でたたんで静止し、タバココナジラミはわずかに翅を開いて静止する。

— 農薬の適正使用について —

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 3 風の弱い時間帯を選び、周辺環境への飛散防止に努める。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

－6月下旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:5月18、19日

天候予報:仙台管区气象台5月25日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	－	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 向こう1か月の平均気温は平年並か高いと予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
すすかび病	－	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 湿度が高いことが発生に好適であり、向こう1か月の降水量は平年並か多いと予報されている。(/ ± ~ +)

病害虫名	発生時期	発生量
灰色かび病	－	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 20～25℃で湿度が高いことが発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高く(/ ±)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/ ± ~ +)

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	－	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生葉率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 向こう1か月の平均気温は平年並か高いと予報されている。(/ ± ~ +)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	－	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生株率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 向こう1か月の平均気温は平年並か高いと予報されている。(/ ± ~ +)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	－	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生株率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 向こう1か月の平均気温は平年並か高いと予報されている。(/ ± ~ +)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生株率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 向こう1か月の平均気温は平年並か高いと予報されている。(/ ± ~ +)

病害虫名	発生時期	発生量
ハモグリバエ類	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 向こう1か月の平均気温は平年並か高いと予報されている。(/ ± ~ +)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・施設周辺の雑草は害虫の発生源となるのでは場周辺の除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・植物体の過繁茂は、病害の発生を助長するほか、薬剤の散布ムラや病害虫の発生を見落とす可能性があるため、適切に整枝剪定を行う。
- ・病害虫の発生密度が高くなると防除が困難になるので、初期防除の徹底を心がける。
- ・天敵製剤や訪花昆虫を使用しているほ場では、天敵や訪花昆虫への影響日数に注意して使用する薬剤を選択する。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) うどんこ病

- ・施設栽培では季節を問わず発生するが、多肥や整枝剪定の不徹底などで、植物体が軟弱徒長、過繁茂になると発生が助長されるので栽培管理を徹底する。

(3) すすかび病・灰色かび病

- ・ハウス内が多湿になると発生が多くなるので、換気を適切に行う。また、灌水過多にならないよう管理するとともに、適切に整枝剪定を行い、風通りの良い草姿を維持する。
- ・発病した果実や茎葉は見つけ次第摘除し、施設外へ搬出し適切に処分する。

(4)アザミウマ類

・近年薬剤感受性の低下が全国的に問題となっているため、発生しているアザミウマの種類に効果がある IRAC コードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。

※「普及に移す技術」第 93 号(平成 30 年発行)参考資料9「アザミウマ類の各種薬剤に対する感受性」<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/685975.pdf>

・定植時等に施用した薬剤の効果は定植後3週間頃には低下することに加え、野外では5～7月の各種雑草の開花期にアザミウマ類の発生量が多くなるので、施設内への飛込に注意する。

(5)アブラムシ類

・多発すると作物への吸汁や排泄物にすす病が発生して被害が出るので、適切に防除を行う。

(6)コナジラミ類

・主に葉裏にいたので、薬剤散布は葉の表だけでなく植物体全体にかかるように散布する。

・多発時は卵、幼虫、蛹、成虫が混在するので、1週間～10日おきに IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

(7)ハダニ類

・薬剤感受性が低下しやすいので、薬剤の効果を確認し、気門封鎖剤も含めて IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

・多発すると1回の薬剤散布のみでは散布ムラ等で十分な効果が得られない場合があるので、薬剤散布の3～5日後にハダニ類が生育していた場所を観察し、虫の有無や効果を確認する。効果が見られなかった場合は IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

(8)ハモグリバエ類

・葉の吸汁痕や産卵痕、幼虫の食害痕を観察し、発生初期に防除する。

ー農薬の適正使用についてー

- 1 ラベルに記載されている適作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 3 風の弱い時間帯を選び、周辺環境への飛散防止に努める。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー6月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:5月18～22日

天候予報:仙台管区气象台5月25日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
オオタバコガ	—	平年並

予報の根拠

- (1)5月第5半旬までのフェロモントラップでの誘殺数は平年並であった。(/ ±)
- (2)巡回調査の結果、果実における発生は確認されなかった(夏秋トマト、夏秋なす)。(/ ±)
- (3)乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は平年並か多いと予報されている。(/ - ~ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハスモンヨトウ	—	平年並

予報の根拠

- (1)5月第5半旬までのフェロモントラップでの誘殺数は平年並であった。(/ ±)
- (2)巡回調査の結果、葉における発生は確認されなかった(夏秋トマト、夏秋なす)。(/ ±)
- (3)乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は平年並か多いと予報されている。(/ - ~ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
シロイチモジヨトウ	—	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、葉における発生は確認されなかった(夏秋トマト、夏秋なす)。(/ ±)
- (2)乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は平年並か多いと予報されている。(/ - ~ ±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・薬剤防除は、高い防除効果が得られる中齢幼虫までに行う。
- ・寄主範囲が広く、雑草での発生も多いため、ほ場周辺の除草を実施する。
- ・施設栽培では開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ・薬剤抵抗性の発達防止のため、IRACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

(2)オオタバコガ

- ・生長点付近の茎葉・蕾・花・幼果に食入すると農薬がかかりにくく防除が困難になるため、ほ場をよく見回り、農作物に食入する前に防除を行う。
- ・トマトやナス等果菜類の被害果、レタスや花き類等の被害株は、内部に幼虫が生息している場合があるので、ほ場外へ持ち出して適切に処分する。

(3)ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウ

- ・葉裏に毛でおおわれた卵塊で産卵し、集団で葉を食害するので、見つけ次第除去する。
- ・初発の防除後にも被害が見られる場合は、成虫の飛来が多い状況であるため、被害葉の除去とともに、7～10日間隔で薬剤をローテーション散布し、若齢幼虫を防除する。

— 農薬の適正使用について —

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 3 風の弱い時間帯を選び、周辺環境への飛散防止に努める。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム：<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム